

石川県の長い石鏸について

久田 正弘

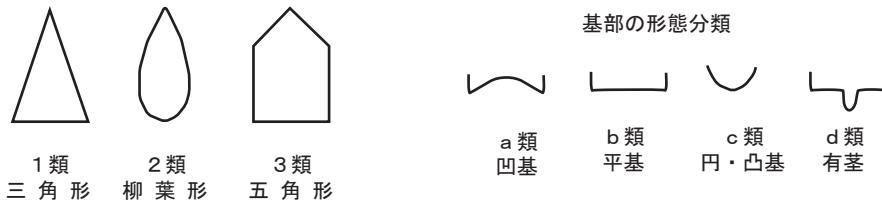
1. はじめに

私の職場は平成10年に開設された(財)石川県埋蔵文化財センターになってから、飛躍的に遺跡の調査量が増えた。各調査員は発掘調査をこなすことが精いっぱいであり、報告書が配布されたと同時に新たな知見や問題点を認識するのが普通であった。その中で中能登町（旧鹿西町）徳丸遺跡（財2004）にガラス質安山岩2として下呂石の長身鏸が報告された。筆者は、平成16年度の所内研修時に下呂石の現物を回覧されて共有化をはかってみた。その後、報告書や現場などで下呂石・黒色安山岩・黒色頁岩製長身鏸を確認したことから、本稿をまとめることにした。

2. 県内の長身鏸

当初長さ35mm以上の石鏸を集成し始めたが、かなりの量になることが予想されたので40mm以上を対象とした。その結果、弥生時代の石鏸だけではなく、縄文時代の石鏸の中にも長い石鏸があるのを確認した。石材名は、報告書の記述を尊重したが、写真・実物・技法などから確認して筆者が変更した部分もある。石川県内は、輝石安山岩と呼ぶ黒色安山岩の産地が志賀町（旧富来町第2図■）にあり、無斑晶安山岩やガラス質安山岩と呼ばれていた。サヌカイトとも似ており、表皮（23）が付いていないと肉眼だけでは区別は難しい。よって、分析か表皮で確認された以外は、安山岩と呼称する。玉髓質泥岩は県内ではフリントと呼ばれ、新潟県では玉髓とされる石材であるが石川県で使用する玉髓とは異なる。県内では珠洲市横山海岸（第2図●）で採取される黒色半透明玉髓質泥岩（高田・大屋ほか2008）や淡茶褐色や透明に近いものなど数種類があり、産地は複数存在する可能性がある。珪質頁岩は、珠洲市内に産地が想定（西田2005）されており、凝灰岩や流紋岩は地質から北加賀・南加賀地方で産地が想定可能である。下呂石は、富山県ではハリ質安山岩、小松市八日市地方遺跡では玻璃質デイサイト（小松市2013）と呼称されている。

分類は、形態的に三角形を1類、柳葉形を2類、五角形を3類とした。基部の形態から凹基をa類、平基をb類、円基・凸基をc類、有茎をd類として分類したが、厳密には分類に苦しむものもある。



第1図 石鏸の形態分類概念図

3. 県内の状況

県内では、報告を確認できたのは65遺跡144点である。しかし、文献検索時の漏れ、報告前の資料や観察表だけの記載（真脇遺跡、八日市地方遺跡）などもあり、出土量はこれ以上存在する。発掘調査の少ない市町や金沢市街地化区域などは、分布が希薄である。また、著名な縄文遺跡と八日市地方遺跡以外は、1遺跡での出土量が少ない。縄文時代の遺跡は、時期幅がある場合が多いので大雑把に「縄文」とし、縄文時代か弥生時代か判断できないものと縄文時代晩期末～弥生時代前期（乾遺跡）

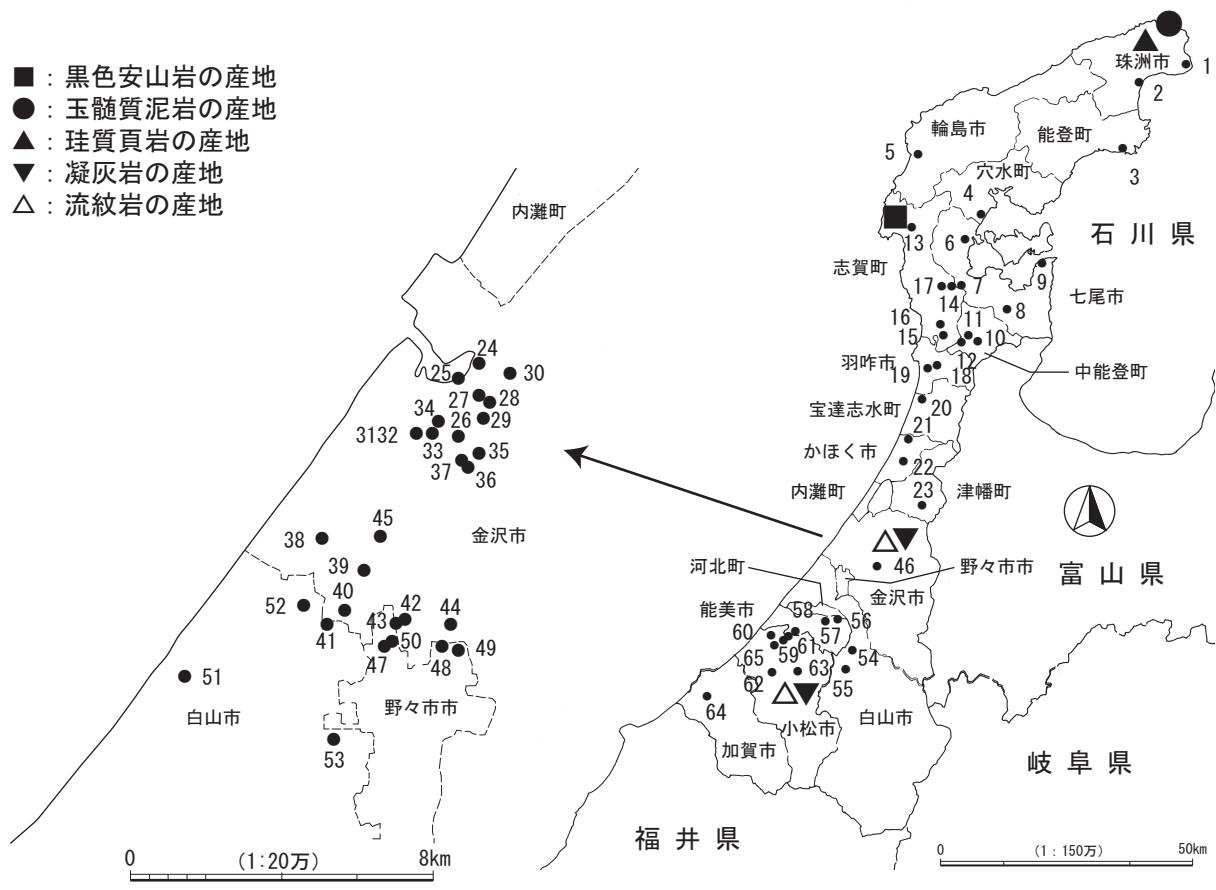
のものを「縄文・弥生」とした。なお、第4図59は報告書の図面自体が変形しているので、図上で修正したが正確ではない。

縄文の傾向をみてみたい。1a類18点は幅17~22mm 15点と集中する。2b類3点は幅20~22mm、2c類2点は17~19mmに集中する。2d類12点は、幅19mm以下で12~16mm 11点に集中する。3a類7点は、幅15~18mm 4点に集中する。縄文全体では幅12~15mmと17~22mmに集中する傾向が伺え、長さは50mm以下が多い。縄文時代の長い石鏃は、1a・2d類が主体である。石材的には、能登地方では玉髓質泥岩・珪質頁岩・安山岩が主体、北加賀地方では安山岩・玉髓質泥岩が主体で凝灰岩も目立ち、南加賀地方では流紋岩が主体である。玉髓質泥岩と安山岩は、産出地周辺のみならず広域に運ばれているが、珪質頁岩・流紋岩・凝灰岩は、産地周辺に限られる傾向がある。

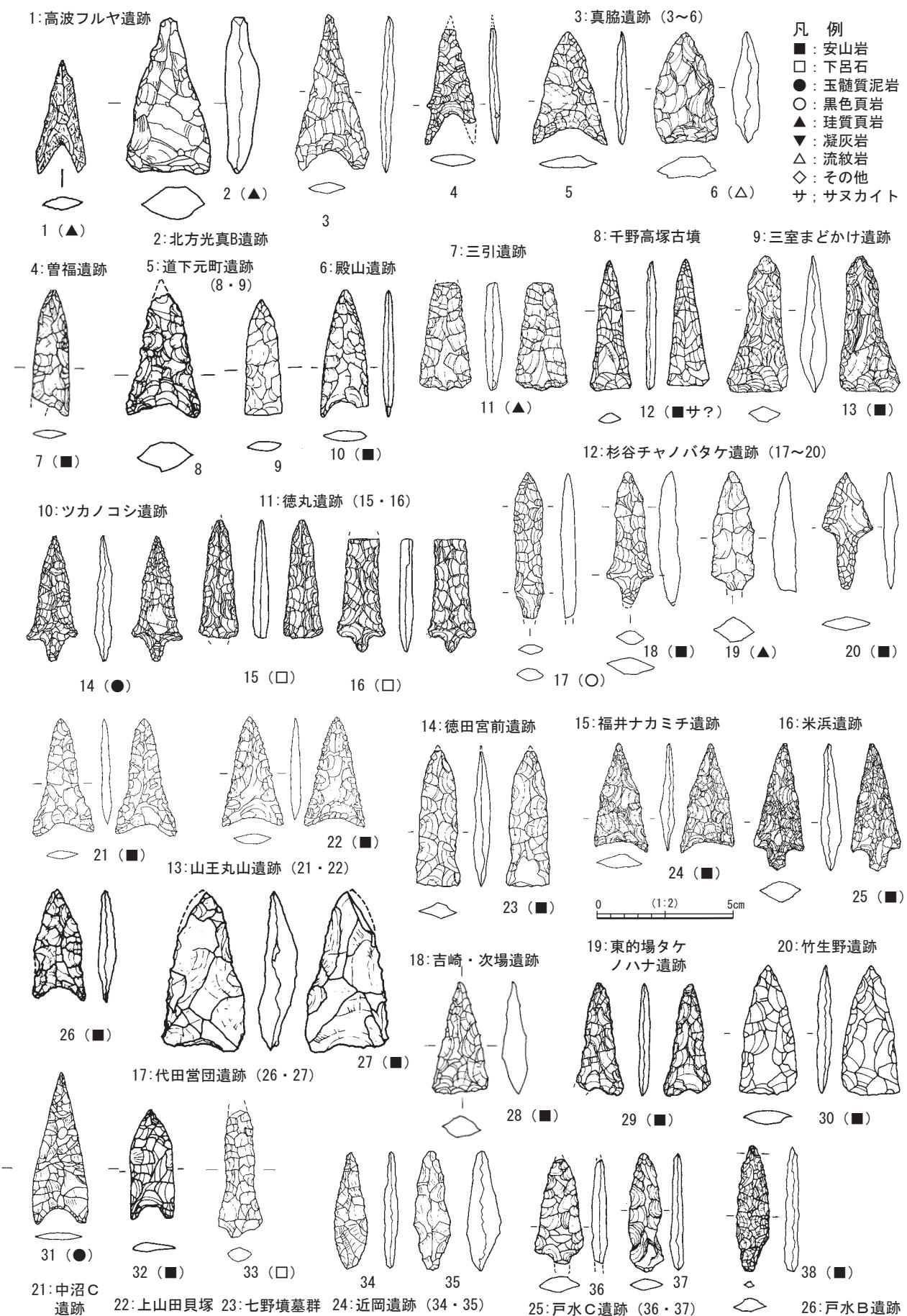
縄文・弥生は、1d類は18mm、2d類は18mmに集中する。石材は安山岩が主体である。

弥生の傾向をみてみたい。縄文に多い1a類4点は少なく、幅15~18mm 3点集中する。1b類15点は幅12~20mm 13点集中する。1d類は幅20mm以下である。2b類5点は幅13~15mmであり、長さも43~48mmであり、サイズが近い。2c類3点は幅・長さともバラツキが多い。2d類4点は11~12mm 3点と細いものが多い。3a類4点は14~15mm 3点に集中するが、幅30mmの26は弥生前期である。3b類20点は幅12~16mm 15点が集中し、7点は八日市地方遺跡である。3c類2点は幅15mmである。3d類15点は幅14~20mmに12点集中する。弥生全体では幅12~20mmに集中し、13・15・18mm前後が多い。縄文時代よりは細身になる傾向が伺える。弥生時代の長身鏃は、1b・3b・3d類が主体である。石材的には縄文に無かった下呂石製が13点確認され、八日市地方遺跡は5点と多い。

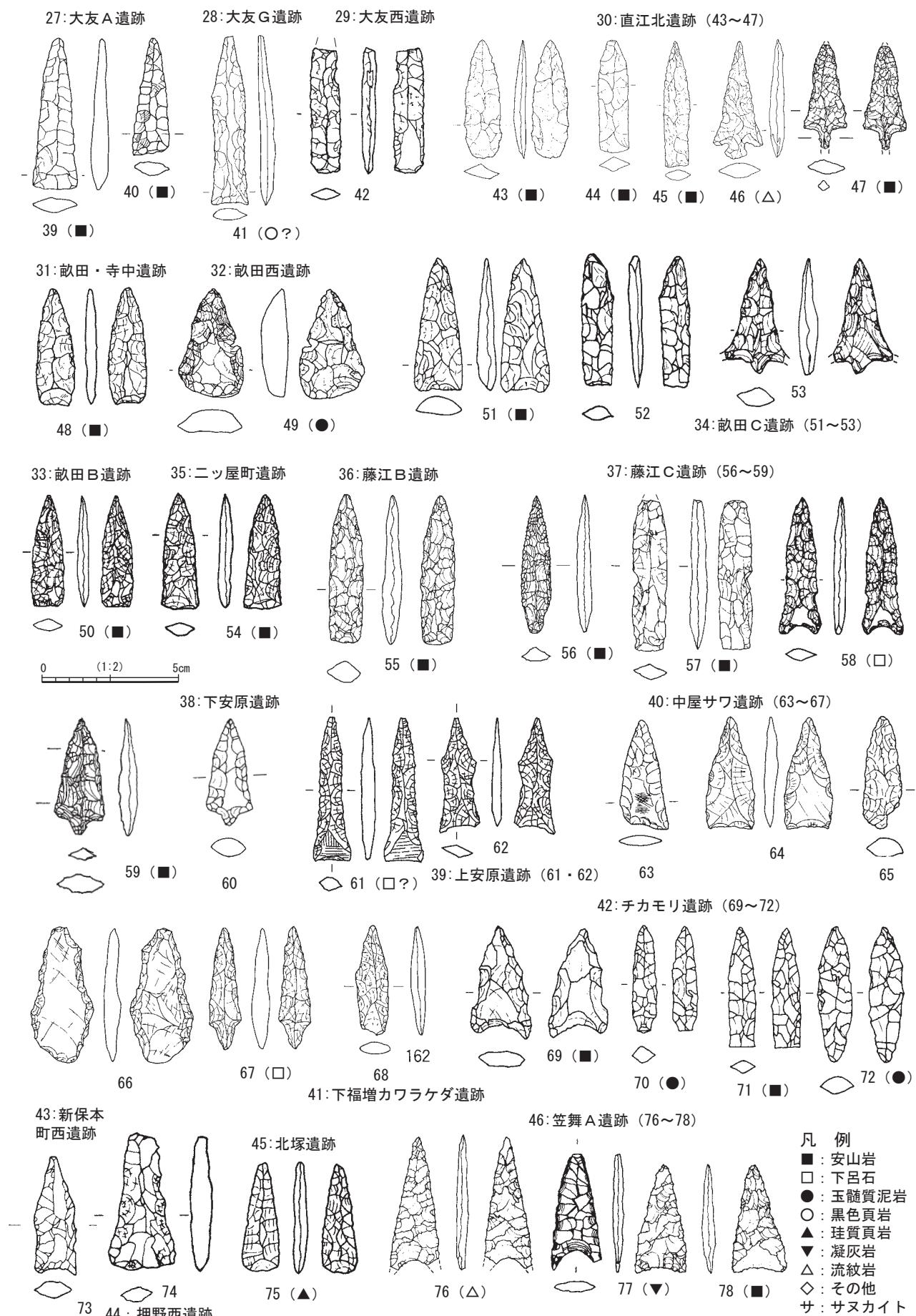
形態的には、1a類は縄文18点：縄文・弥生4点：弥生4点であり、圧倒的に縄文が多い。幅は縄文



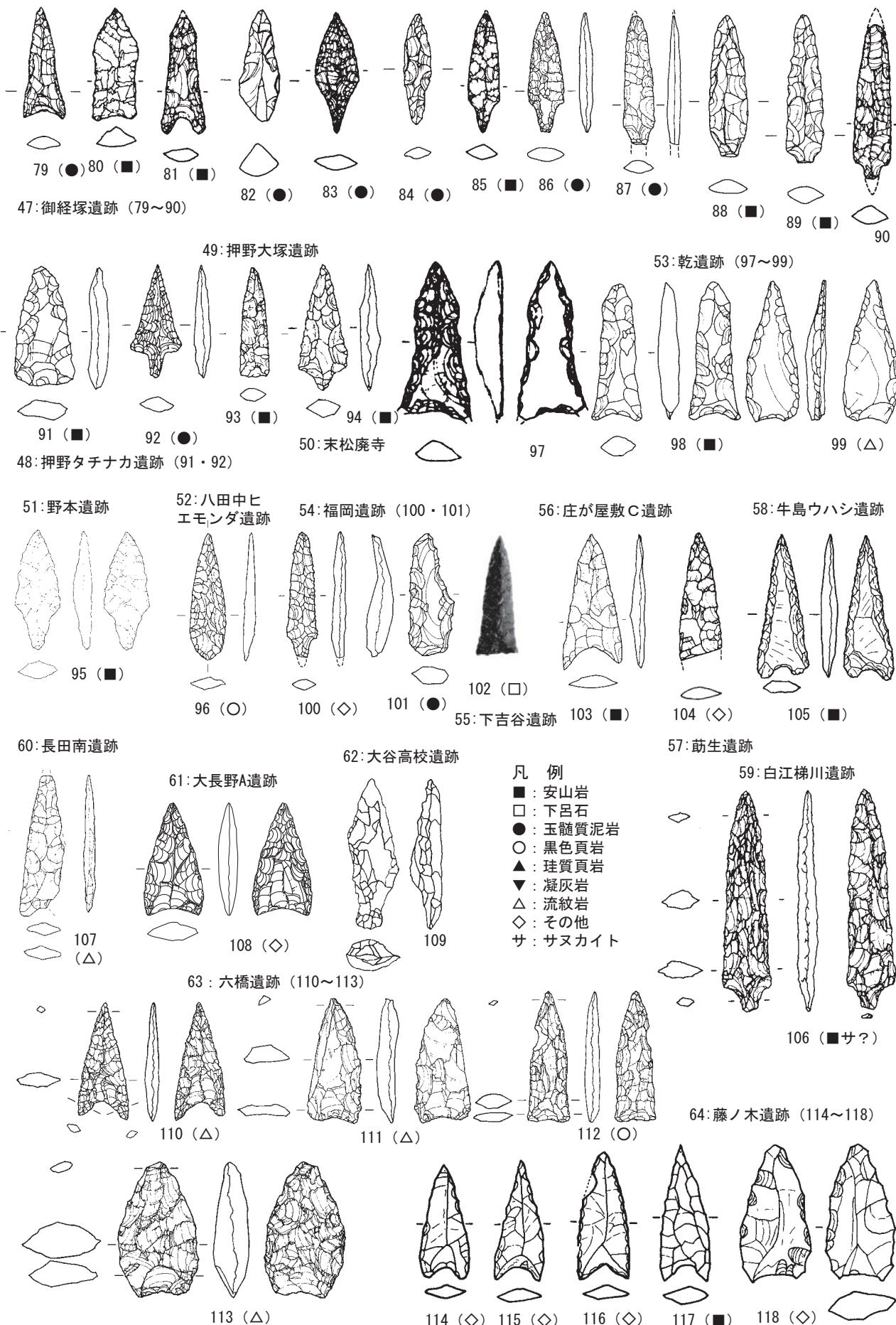
第2図 長い石鏃の出土遺跡



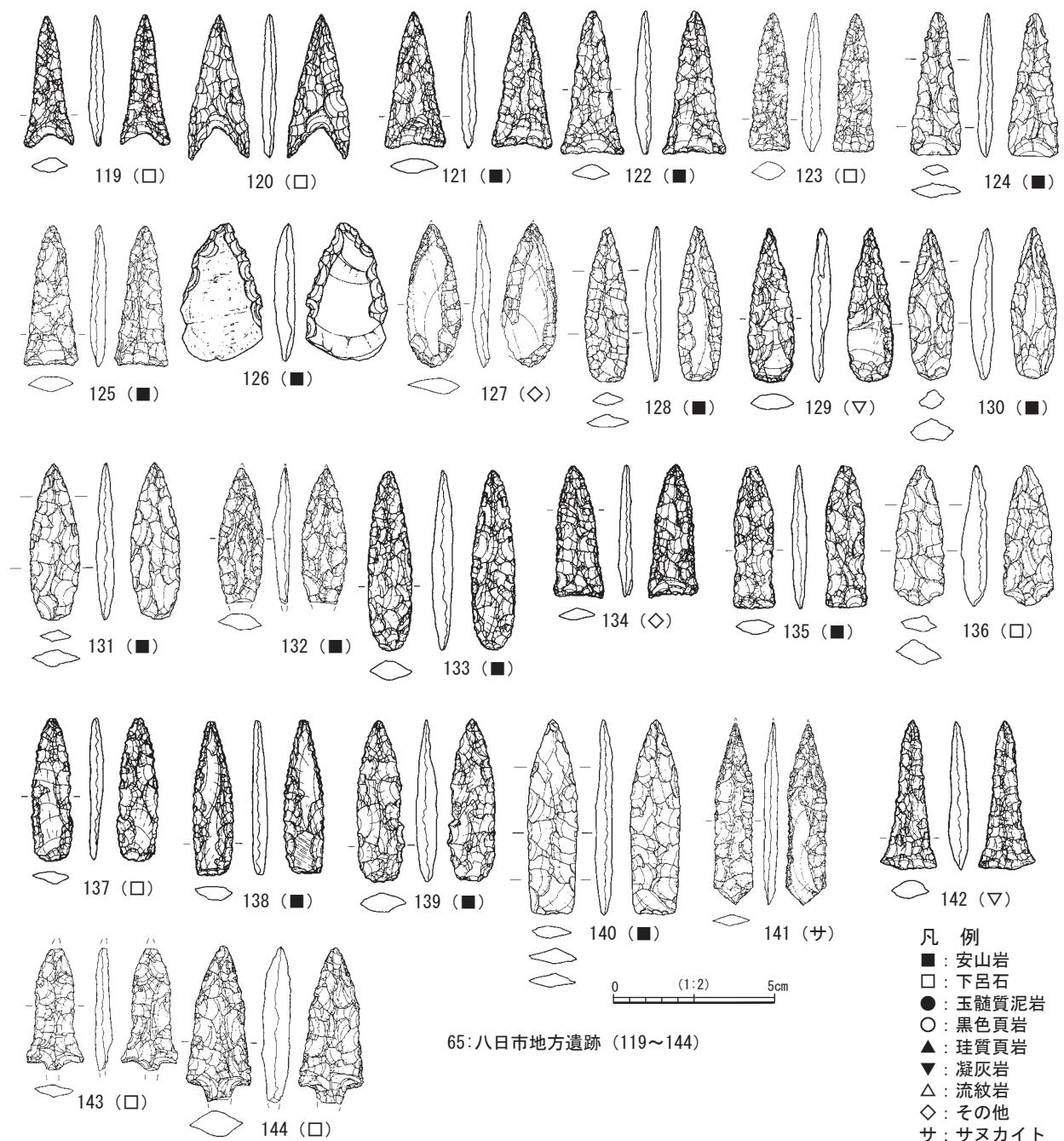
第3図 能登・北加賀地方の長い石鎌



第4図 北加賀地方の長い石鎌

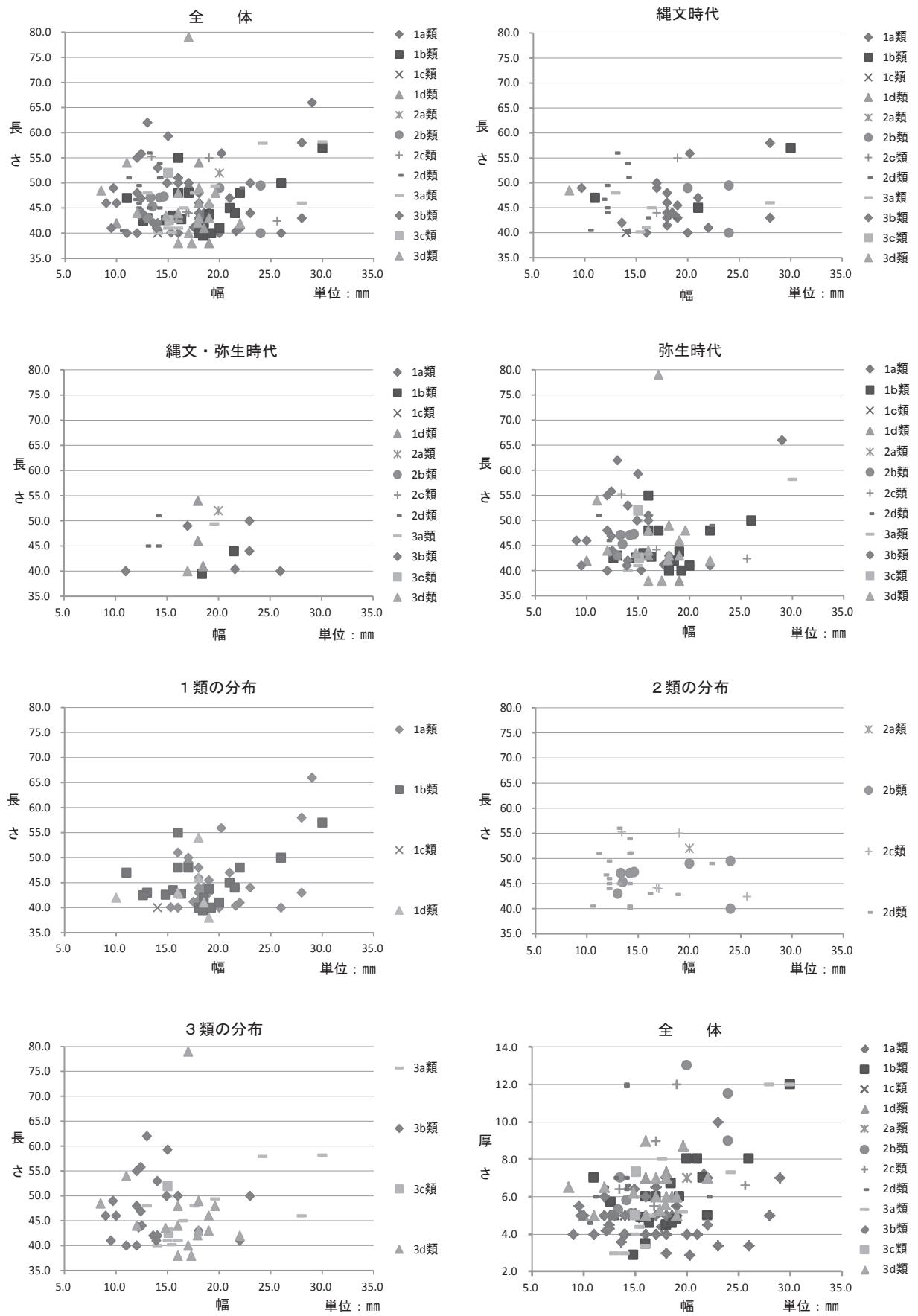


第5図 北加賀・南加賀地方の長い石鏃



第6図 南加賀地方の長い石鏃

	市町名	番号	遺跡名	報告番号	石材	形態	時期	長さ	幅	厚さ	重量	備考		市町名	番号	遺跡名	報告番号	石材	形態	時期	長さ	幅	厚さ	重量	備考		
1	珠洲市	1	高波フルヤ	28図1	珪質頁岩	1a	繩	44	18	5			43	金沢市	73	新保本町西	25図5	安山岩	3a	弥	41	15	6	3.30	市1993		
2		2	北方光真B	60図13	珪質頁岩	1b	繩	57	30	12	16.9		44		74	押野西	32図8		1b	弥	50	26	8	8			
3	能登町	3	真脇	86図1-36		1a	繩	58	28	5			45		75	北塚	70図10	白色凝灰岩	1c	繩	40	14	5	1.5	市1998		
		4	真脇	86図1-35		1a	繩	43	19	5			46		76	笠舞A	82図21	流紋岩	1a	繩	49	17	4	2.1	市1981		
		5	真脇	86図1-34		1a	繩	43	28	5					77	笠舞A	26図4	凝灰岩	1a	繩	(43)	18	3	(2.5)	県1979		
		6	真脇	02図35-6	珪質頁岩	2b	繩	40	24	9	1.8				78	笠舞A	82図20	安山岩	1a	繩	40	20	4	2.5	市1981		
4	穴水町	7	曾福	59図1	安山岩	3a	繩	(48)	(13)	3	(2.0)				79	御経塚	6-22図49	安山岩	1a	繩	48	18	7	3.1	町1984		
5	輪島市	8	道下元町	71図1		3a	繩	46	28	12				野々市市	80	御経塚	144図194	玉髓質泥岩	3a	繩	40.2	15.4	4.4	1.8	町2003		
6	7	道下元町	71図2	アブライト	3b	繩	42.0	13.6	3.6	2.15			81	御経塚	6-22図72	安山岩	3a	繩	(45)	16.5	5	(2.8)	町1984				
7	8	10	殿山	12図21	安山岩	1a	繩	46	18	4			82	御経塚	144図230	玉髓質泥岩	2d	繩	40.5	14.0	11.9	4.8	町2003				
8	9	11	三引	67図241	珪質頁岩	1b	繩	39.5	18.4	6.7	3.9		83	御経塚	6-21図41	玉髓質泥岩	2d	繩	43	16	6	3	町1984				
9	12	13	千野高塙古墳	14図1	安山岩	1b	弥	48	16	3.5	2.11	サヌカイト?	84	御経塚	144図228	玉髓質泥岩	2d	繩	(40.5)	10.4	4.6	(1.6)	町2003				
10	14	15	久江ツカノコシ	57図680	玉髓質泥岩	3d	弥	46	19	6	3		85	御経塚	6-21図2	安山岩	2d	繩	(44)	12	6	(2.5)	町1984				
11	16	17	徳丸	36図13	下呂石	3d	弥	43.5	14.8	6.2	2.8		86	御経塚	185図31	玉髓質泥岩	2d	繩	42.8	18.7	5.5	2.0	町1989				
12	18	19	徳丸	36図14	下呂石	3d	弥	42.1	17.9	5.6	3.1		87	御経塚	185図30	玉髓質泥岩	2d	繩	46.7	11.7	4.9	2.5	町1989				
13	21	22	杉谷チャノバタケ	241図111	安山岩	3d	弥	54	11	5	3		88	御経塚	144図227	安山岩	2d	繩	51.1	14.1	6.6	4.6	町2003				
14	23	24	杉谷チャノバタケ	241図112	黑色頁岩	3d	弥	49	18	6	3.8		89	御経塚	144図226	安山岩	2d	繩	53.9	14.0	6.4	4.4	町2003				
15	25	26	杉谷チャノバタケ	241図113	赤色珪質岩	3d	弥	44	16	9	4.6		90	御経塚	6-21図1	流紋岩	2d	繩	56	13	7	4.7	町1984				
16	27	28	杉谷チャノバタケ	242図116	安山岩	3d	弥	43	19	5	2.6		91	押野タチナカ	58図1	安山岩	1b	繩	44	21.5	7	6.7	町1989				
17	29	30	王山丸山	60図15	安山岩	1a	繩	44	23	3.4	2.1		92	押野タチナカ	48図1	玉髓質泥岩	1d	繩	41	18.5	6	2.3	町1989				
18	31	32	王山丸山	60図14	安山岩	1a	繩	40	23	3.4	2.4		93	押野タチナカ	82図174	安山岩	3b	繩	40	11	4	1.5	町2011				
19	33	34	23	徳富宮前	24図89	安山岩	3b	弥	50	16	6	4.1	輝石安山岩	白山市	94	末松庵寺	95図3	安山岩	1d	繩	54	18	7	3.9	県2000		
20	35	36	24	福井ナカミチ	55図438	安山岩	3a	繩	49.4	19.6	5.2	2.29			95	野本	57図302	安山岩	1d	弥	43	16	7	3.1	県1993		
21	37	38	25	米浜	18図8	流紋岩	1d	繩	46	18	7.3	3.2			96	八田中ヒエモンダ	16図80	安山岩	2d	繩	51	14	5	3.0			
22	39	40	26	代田當田	24図1	安山岩	3a	弥	(58.2)	30.0	12.0	(17.8)			97	乾	12図94		3a	繩	57.9	24.2	7.3	8.0	県2010		
23	41	42	27	代田當田	24図2	安山岩	1b	弥	40.0	19.2	6.0	3.4			98	乾	138図379	安山岩	3a	繩	48	17.6	8	5.5	県2001		
24	43	44	28	吉崎・次場	135図226	安山岩	1b	弥	41	20	8	4.9			99	乾	138図371	細粒凝灰岩	2a	繩	52	20	7	6.5	県2001		
25	45	46	29	羽咋市	120図15	安山岩	1a	弥	41.2	17.5	4.4				100	福岡	49図9	チャート	2d	繩	(45)	12	6	2.4			
26	47	48	30	宝達志水町	151図4	竹生野	1b	弥	48	22	5				101	福岡	49図11	玉髓質泥岩	2c	繩	44	17	9	6.4			
27	49	50	31	かほく市	44図9	玉髓質泥岩	1a	繩	55.9	20.2	2.9	2.8			102	下吉谷	12図94		1b	下吉谷	1b	繩	42.6	14.8	2.9	1.5	
28	51	52	32	上山田貝塚	40図1	安山岩	3a	繩	41.0	16.0	3.4	2.6			103	庄が屋敷C	202図1	安山岩	1a	繩	47	21	4	3.0			
29	53	54	33	津幡町	22図88	七野塙墓群	3d	弥	48	16	5				104	能美市	93図1	石英粗面岩	2	繩	(45)	15.6	4.7	2.4			
30	55	56	34	近岡	17図8		2d	繩	45	13	5		県1995	小松市	105	牛島ウハシ	44図2	安山岩	1a	繩	49	17	5	5.0			
31	57	58	35	近岡	17図9		2d	繩	45	14	12		県1995		106	白江梯川	21図390	安山岩	3d	弥	79	17	7	8.4	サヌカイト?		
32	59	60	36	戸水C	19図2		1d	弥	(3.8)	19	6		県1986		107	長田南	22図15	流紋岩	1a	繩	(51)	(16)	5	3.5			
33	61	62	37	戸水C	19図6		2d	弥	44	12	5		県1986		108	大長野A	99図96	硬質頁岩	1a	繩	40.4	21.6	7.2	5.1			
34	63	64	38	戸水B	168図5	安山岩	2d	弥	46	12	5	2	県2004		109	大谷高校	3図1A8		繩	55	19	12					
35	65	66	39	大友A	43図269	安山岩	1b	弥	55.0	16.0	6.0	4.32			110	六橋	83図3	流紋岩	1a	繩	43	19	6	2.4			
36	67	68	40	大友A	43図268	安山岩	1b	弥	43.0	13.0	5.0	2.63			111	六橋	83図2	流紋岩	1b	繩	45	21	8	6.0			
37	69	70	41	大友G	209図97	貞岩?	3b	弥	(62.0)	13.0	5.0	4.50	灰色		112	六橋	83図1	黑色頁岩	1b	繩	47	11	7	4.0			
38	71	72	42	大友西	190図4		3b	弥	(46)	10	5		市2002		113	六橋	84図38	流紋岩	2b	繩	49	20	13	15.4			
39	73	74	43	直江北	56図28	安山岩	2b	弥	43	13	5.0	2.50	市2014		114	藤ノ木	38図20	長石	1a	繩	41.5	18	5.0	2.9			
40	75	76	44	直江北	108図1	五體?	3b	弥	43	18	5.0	2.32	市2014		115	藤ノ木	38図21	長石	1a	繩	44	18.5	5.0	2.1			
41	77	78	45	直江北	108図2	安山岩	3b	弥	46	9	4.0	1.74	市2014		116	藤ノ木	38図22	長石	1a	繩	45.5	19	5.5	3.9			
42	79	80	46	直江北	108図3	安山岩	1d	弥	42	10	5.0	2.50	市2014		117	藤ノ木	38図8	安山岩	1a	繩	50	17	6.5	5.5			
43	81	82	47	直江北	96図S1	安山岩	3d	弥	(38)	16	5	2.12	県2016	小松市	118	藤ノ木	39図113	玄武岩	2b	繩	49.5	24	11.5	10.4			
44	83	84	48	欽田・寺中	12図21	安山岩	3b	弥	42	14	4		市2015		119	八日市地方	46図374	安山岩b	1a	弥	40.1	15.3	4.9	1.8	市2013		
45	85	86	49	欽田西遺跡群	65図S50	安山岩	3c	弥	52	15	5	3.8	県2006		120	八日市地方	77図74	下呂石	1a	弥	66.0	29.0	7.0	2.3	県2004		
46	87	88	50	欽田B	70図128	安山岩	3b	弥	41	22	4.5	2.05	県2003		121	八日市地方	44図343	安山岩	1b	弥	42	18.5	4.6	2.79	市2013		
47	89	90	51	欽田C	67図1	安山岩	1b	弥	48	17	6	6.0	市2004		122	八日市地方	45図367	安山岩	1b	弥	43.8	19	4.8	2.81	市2013		
48	91	92	52	欽田C	58図148	安山岩	3b?	弥	48	12	5	3.5	県2004		123	八日市地方	189図51	下呂石	1b	弥	42.5	12.6	5.7	2.44	市2003		
49	93	94	53	欽田C	59図152	安山岩	3d	弥	42	22	7	3.7	県2004		124	八日市地方	44図344	安山岩	1b	弥	43.4	15.5	4.9	2.5	市2013		
50	95	96	54	欽田C</td																							



第7図 長い石鎌の分布

では17~22mmに集中する。1b類は縄文3点：縄文・弥生2点：弥生15点であり、圧倒的に弥生が多い。弥生では幅15~22mmに集中する。1c類は縄文1点である。1d類は縄文・弥生3点で、幅は16~19mmに集中する。2a類は縄文・弥生1点（縄文晚期終末～弥生前期）がある。2b類は縄文3点：弥生5点であり、長さは50mm以下と共通するが、幅は縄文20~22mm：弥生13~15mmと時代により幅が狭くなる。2c類は縄文2点：弥生3点（八日市地方遺跡）であり、幅は18mm前後が多い。2d類は縄文12点：縄文・弥生3点：弥生4点と縄文に多く、幅は11~16mmに集中する。3a類は縄文5点：縄文・弥生3点：弥生4点であり、幅は13~20mmに集中し、それを越えるグループ（24~30mm）もある。3b類は縄文2点：縄文・弥生2点：弥生20点であり、圧倒的に弥生が多く、しかも八日市地方遺跡7点と北加賀地方（金沢市沿岸部）11点に集中する。幅9~16mmの細身が主体であり、22~23mmは2点である。3c類は弥生2点（安山岩と下呂石）が確認される。3d類は17点中15点が弥生であり、幅は14~20mmに集中する。縄文の70は幅9mmと細くて稜も弱く別な形式とした方が良いのかもしれない。長さは、79mm（109）以外は40~50mmに集中する。

厚さは8mmまでに集中する傾向がある。8mmを越えるものは縄文6点、縄文・弥生2点、弥生前期1点、弥生2点であり、縄文から弥生前期までが多い。形態的には2b類3点（縄文）、2c類2点（縄文）、3d類2点（弥生）がある。

15・16・33・106・143・144は、五角形長身鎌（石黒1993）や朝日型長身鎌（中村1996）と思われ、106はサヌカイト？、他は下呂石であることからも、東海地方西部から搬入された可能性が高い。20は有茎部が20mmと異常に長く、県内には類例はない。大阪府瓜生堂遺跡（大阪府立弥生文化博物館2007）に類例を確認したが、搬入品であるかは判断できない。

在地系石材は、安山岩70点が圧倒的に多く、縄文では15点中1a類6点：2d類5点が多い。縄文・弥生では10点中1a類3点：3a類2点：3b類2点である。弥生では、37点中1b類11点：3b類13点：3d類6点が多く、基部の分類ではb類（平基）が27点73%を占める。しかし、在地の輝石安山岩は、慣例的に名称を与えているだけであり、サヌカイトの可能性もあるので在地比率は少なくなる可能性があろう。

玉髓質泥岩は11点中縄文9点：縄文・弥生1点：弥生1点であり、縄文では2d類5点が多い。玉髓質泥岩は原産地に近い真脇遺跡でも多く存在（高田氏教示）し、加賀地方まで運ばれている。弥生時代の久江ツカノコシ遺跡（14、3d類）は新潟県地方から搬入された可能性を想定したい。珪質頁岩は4点全て能登地方で縄文3点である。流紋岩は9点中縄文5点：縄文・弥生1点：弥生3点であるが、縄文・弥生の25以外は加賀地方での出土である。凝灰岩3点は全て北加賀地方で縄文から弥生前期までに収まる。

外来系の石材は、サヌカイト・下呂石がある。サヌカイトと確認されたものは少ないが、分析や表皮観察や磁力検査により今後増える可能性があろう。下呂石は13点あり、12点が弥生の3類である。縄文の63（1a類）は中屋サワ遺跡出土であり、弥生時代の遺構も多い事から弥生時代の可能性もある。下呂石は、長い石鎌でなければ、七尾市三引遺跡の縄文時代早期末～前期初頭の第1貝塚から6点出土が確認（金山ほか2004）されている。

5. まとめにかえて

石川県の長い石鎌を纏めてみたが、弥生の長身鎌について論考するまではほど遠いものである。集成するのに時間がかったこともあるが、輝石安山岩とサヌカイトの識別や石材名の未記載や計測値などに問題が多い事を痛感した。縄文時代全体では長さ50mm以下で幅12~15：17~22mmに集中し、形

態的には1a類が多い。弥生時代全体では、12~20mm（13・15・18mm前後）に集中し、縄文よりやや細身になる。形態的には1b・3b・3d類が多い。今回は上記の傾向が伺えた。

図版の出典報告書が多いので、市町別に簡単にまとめた。県・市・町・村は教育委員会を省略、県立は石川県立埋蔵文化財センターを省略、財・公は財団・公益財団石川県埋蔵文化財センターを省略した。

本稿をまとめるにあたり、赤沢徳明、下濱貴子、高田秀樹、永井宏幸、西田昌弘、原田幹、宮田明、山川史子の協力を得た。敬称省略。

参考文献

- 石川県農林水産部耕地整備課 1986 『土地分類基本調査 小松』
石黒立人 1993 「弥生時代の石器」『朝日遺跡IV』 愛知県埋蔵文化財センター
大阪府立弥生文化博物館 2007 『稻作とともに伝わった武器』
金山哲哉ほか 2004 『三引遺跡III（下層編）』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
高田秀樹・大安尚寿・砂上正夫・古西里美・大屋道則 2008 「真脇遺跡出土の玉髓質泥岩類とその産地」『研究紀要第23号』
埼玉県埋蔵文化財調査事業団
西田昌弘 2005 「小結」「だいじょう寺畠遺跡」石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

図版出典文献

- 珠洲市 市1976『珠洲市史 資料編自然・考古・古代』・2004『中野鍊次郎採集遺物報告書』 能登町 能登町1986『真脇遺跡』・2002『真脇遺跡2002』 能登町2006『真脇遺跡2006』 穴水町 町1980『曾福遺跡』 輪島市 県立1985『道下元町遺跡』
七尾市 中島町1990『殿山遺跡』 七尾市1986『千野高塚古墳』 財2003『三引遺跡II（上層編）』・2000『三室福浦B遺跡・三室まどかけ遺跡』 中能登町 県立1995『谷内・杉谷遺跡群』 財2003『久江ツカノコシ遺跡』・2004『徳丸遺跡』
志賀町 富来町1994『山王丸山遺跡』 志賀町1981『代田営団遺跡』 財2008『米浜遺跡』 公財2015『徳田宮前遺跡』・2017『福井ナカミチ遺跡』 羽咋市 県立1987『吉崎・次場遺跡第1分冊』 財2004『東の場タケノハナ遺跡』 宝達志水町 県立1988『竹生野遺跡』 かほく市 宇ノ気町1979『上山田貝塚』 高松町1987『中沼C遺跡』 津幡町 町2010『七野墳墓群』
金沢市 市1981『笠舞遺跡』・1984『チカモリ遺跡一石器編』・1987『押野西遺跡』・1990『下安原遺跡』・1992『新保本町西遺跡』・1994『藤江B遺跡（第2次）』・1998『北塚遺跡—第14次』・2002『大友西遺跡II』・2003『大友西遺跡III』・2003『上安原遺跡II』・2004『畠田B遺跡・畠田C遺跡』・2007『中屋サワ遺跡III』・2009『中屋サワ遺跡IV・下福増遺跡II・横江莊遺跡II』・2014『直江北遺跡』・2015『畠田・寺中遺跡X』・2016『大友A遺跡・大友D遺跡・大友F遺跡・大友G遺跡』 県1979『笠舞A遺跡』
県立1986『戸水C遺跡』・1995『近岡遺跡』・1998『二ツ屋町遺跡』 財2000『戸水B遺跡（10・12・13次）』・2001『藤江B遺跡II』・2001『藤江C遺跡I』・2002『藤江C遺跡IV・V』・2003『畠田・無量寺遺跡・畠田B遺跡』・2004『畠田B遺跡・畠田C遺跡・無量寺C遺跡』・2006『畠田西遺跡群III』 公財2016『大友A遺跡・大友E遺跡・直江西遺跡・直江北遺跡』 野々市市 野々市町1983『御経塚遺跡』・1989『御経塚遺跡II』『押野タチナカ遺跡・押野大塚遺跡』・2003『御経塚遺跡III』・2011『押野タチナカ遺跡・押野大塚遺跡2』 財2000『末松遺跡群』 白山市 県立1985『白山遺跡・白山町墳墓遺跡（II）』・1990『八田中遺跡群』・1993『野本遺跡』 財2001『乾遺跡』・2010『乾遺跡』 河内村1987『福岡遺跡』 能美市 辰口町1978『萌生遺跡』
寺井町1999『牛島ウハン遺跡』 財1999『能美丘陵東遺跡群IV』 小松市 市1998『長田南遺跡』・2003『八日市地方遺跡I』・2013『八日市地方遺跡II—第1部遺構編・第2部石器編』 北陸大谷高校1968『北陸大谷高等学校地歴クラブ紀要第3号』
県立1989『白江梯川遺跡II』・1997『六橋遺跡』 財2004『八日市地方遺跡』・2014『大長野A遺跡』 加賀市 市1985『藤ノ木遺跡』